

その認知症の診断は本当に正しいのか?



「高齢者のうつ病を認知症と誤診しているケースが多い」と指摘するのは、ぐどうちあき脳神経外科クリニックの藤千秋院長(日本認知症学会認定医・指導医)。それが取り返しのつかない結果を招いていることがある。

高齢者のうつ病が見逃されている

放置すると本格的な認知症に移行

近年になって、「高齢者のうつ病を適切に治療しなければ、認知症に至る可能性がある」ということも明らかになってきた。

「うつ病の高齢者の中に症状が認知症と似ている『うつ病性偽性認知症』があります。このうつ病性偽性認知症の場合は、やがては本格的

な認知症へと「移行」します。言い換れば、うつ病性偽性認知症まではうつ病治療で回復する。うつ病を見逃さないことは認知症に至るのを防ぐチヤンスなのです」

前出の「物事を覚えられない」と「変な行動・言動が目立つようになった」という症状なった」という症状なら、認知症専門医以外でもある程度は正しい診断ができる。しかし「ぼー人が集い意見を交わすつとするようになった」「かいご楽快」で、「母

はそのうち軽度の認知症に至り、やがては本格的

な認知症へと「移行」します。認知症とうつ病の見

てしまることがあります。日本認知

最初の2年半、家に閉じ

「物事を覚えられなくなつた」「変な行動・言動が目立つようになった」「ぼーっとするようになつた」——。認知症を疑るのは、「ぼーっとする

つて受診する患者は、大

きく3つに分類できると

「記憶力テストを行うと

点数が悪い。そこで認知

症と診断されるのです

が、実はうつ病といふこ

とがよくあるのです」

うつ病では、注意力や

意欲の低下が見られる。

それが、記憶力テストの

点数の悪さにつながる。

「認知症を診断するに

は、記憶力、認知症の問

題行動、日常生活、高齢

者のうつ、MRIなどの

ないばかりではなく、う

つ病を悪化させてしまい

かねない。認知症は励ま

いなくてはならない。し

すことが進行を遅らせる

かし、これらによる評価

画像検査といったよう

に複数のスケールを用

いなくてはならない。し

すことが進行を遅らせる

怖い薬の飲み合わせ

EDとは、性行為のときに勃起不全に陥る症状を指します。若いときは元気だったのに、中高年になるとEDに悩まされることも少なくありません。

EDの治療薬としては、「バイアグラ」（一般名・シリデナフィル）や「シアリス」（一般名・タダラフイル）が知られています。ただ、これらED治療薬には飲み合わせに注意すべき薬があります。狭心症の薬として多用される「ニトログリセリン製剤」です。

ニトログリセリンは血管を拡張させることにより、狭心症の症状を改善させます。そして、ED治療薬も同様に血管を拡張させるこ^Dとによって作用します。E

心臓病を治療中のED治療薬が

は心臓の血管ではなく、茎の血管を主に拡張するのですが、両者とも血管作用によって効果ことは同じです。この



会員業部師深

め、両者を併用するニトログリセリンの作用され、命に関わるほ作用が起きてしまいます。もともと、バイア

ログリセリンの作用された薬です。しかし、床試験が行われた際、症の治療効果は薄い、した。しかし、その

つているから、認知症という診断は間違いないだろう」と思いがちだ。しかし本当にそれは正しいのか？ 認知症によるま病なのか？ あるいは、うつ病なのか？ しっかり見極めるために協力できる

医師も家族も「年を取

えてこまうのでう。のは家族しかいない。」